



「ヘルシーキャンパス企画」 「オープンラボ寄席めでいかる亭第2弾 京都大学落語研究会」開催報告

2019年2月20日(水)午後5時30分から、京都大学保健診療所健康づくりオープンラボにて、京都大学落語研究会のメンバーによる約1時間のイベントを開催しました。

学生さんたちは帰省などであまり学内にはいない時期でありましたが、興味を持って足を運んでくださった職員さんがスタッフ以外にも6人参加して下さいました。呼び込みに負けて、少しだけ、とおっしゃった方も最後まで引き込まれるほどの会となりました。

「笑いで心も体もええ感じになる」をコンセプトで始めためでいかる亭もおかげさまで第2弾を開催することができました。今回も精神科の上床医師による笑いところの関係についての話を交えたあいさつで始まり、3席の落語を演じていただきました。



葵家尻團治



葵家丈談



楠木亭あっ寒

今回の演者は3人とも1回生という超フレッシュな面々。にもかかわらず、プロ顔負けの芸を披露して下さいました。

開口一番は葵家尻團治(けつだんじ)さんによる「六尺棒」。しなやかな物腰で遊び人の若旦那を演じ、対照的に厳格な父親との掛け合いが見ものでした。

二番手・葵家丈談(じょうだん)さんは使用人・権助が旦那さんのウソを隠すために魚を調達する「権助魚」を披露。権助のおとぼけ具合が絶妙でした。

トリを飾るのは、1回生ながら会長でもある楠木亭あっ寒(あっさむ)さん。前回のめでいかる亭から連続出演です。演目は、樂をしたいがためにお坊さんになりたがるお調子者の八五郎のお噺「八五郎坊主」。八五郎のいいかげんさと憎めなさがにじみ出る芸を見せていただきました。



最後は上床医師の締めくくりで、落語に出てくる人々はひとクセもふたクセもある人が出てきて、周囲の人は振り回されたり、イライラさせられたりしますが、それをユーモアに変えてしまう噺が多い。そうやって、昔の人はこころの疲れを癒していたのではないか、という投げかけがありました。

落語を聞いて笑うだけでも、こころを軽く人生を生きやすく、ええ感じにするヒントになれば幸いだなあと感じられる企画となりまして、めでたくめでいかる亭第2弾お開きとなりました。



(保健診療所 山添)

担当 : 上床・渡辺・弓削・Thomas・山添

連絡先 : TEL : 075-753-2453 (HC 事務局)
Mail : mind@hoken.kyoto-u.ac.jp